

習得研究から日本語教育へ

—誤用分析・コーパス研究・シャドーイングを繋ぐもの—

講師：迫田 久美子 氏

広島大学 特任教授・副理事（日本語教育担当）

国立国語研究所 名誉教授（日本語教育研究領域）

開催日時：2023年2月25日（土）15:00 - 16:30

会場：上智大学四谷キャンパス6号館2階201教室

対象：日本語・言語教育全般に関心のある教員および学生

参加方法：事前申込不要・参加費無料（学外からの参加も可能です。）

「研究は、教育に生かせるのだろうか」これは、大学教員になってからずっと考えてきたテーマです。講演や発表で習得研究やコーパス研究の話をする、「日本語教育とどう関係があるのですか」とよく聞かれました。私自身は、「いい日本語教師になる」というゴールに向かって走っているつもりなのですが、沿道で応援してくれている人には伝わらないようで、「習得研究やコーパス研究は、日本語教育とはあまり関係がない」と思われることに驚きました。

本講演では、長年の教師生活を経て第二言語習得研究に出会い、学習者言語の分析の面白さを発見し、そして現在のシャドーイング研究に至るまでの経緯を紹介したいと思います。これまでの日本語の習得研究を振り返り、また、学習者コーパスを作った経緯を示しながら、「現場の日本語教師が研究するために必要なこと」や「研究者が日本語教育の現場で教えるために必要なこと」について考え、冒頭の「研究は教育に生かせるのか」という疑問について皆さんと一緒に考えていきたいと思います。

講演者紹介

略歴：広島大学大学院博士課程修了（教育学）。専門は、第二言語習得研究・コーパス言語学・日本語教育学。大学卒業後は数年、英語教育に従事し、その後日本語学校などで非常勤講師として日本語教育に携わる。日本語教育を専門的に学ぶために40歳で大学院に進学。修了後、広島大学で17年間勤め、その後、国立国語研究所日本語教育研究情報センター長を経て、広島大学に復帰し、副理事・森戸国際高等教育学院特任教授を務める。主な共・著書として、『中間言語研究—日本語学習者による指示詞コソアの習得—』（溪水社）、『日本語学習者の文法習得』（大修館）『日本語教師のためのシャドーイング指導』（くろしお出版）『改訂版 日本語教育に生かす第二言語習得研究』（アルク）『日本語学習者コーパス I-JAS 入門』（くろしお出版）等がある。

